



関西健康科学専門学校における高齢者機能訓練プログラム

—臨床実習としての教育的効果—

関西健康科学専門学校

中島 琢人／池上 友広／中井 陽一／澤 卓実／池尻 稔明／佐々木阿悠佳
近藤 龍市／住田 行志／林 了大／井上 海平／中村 満

はじめに

平成12年の介護保険法の施行に伴い、柔道整復師は機能訓練指導員として認められ、これに対応するため業界団体においては機能訓練指導員の講習会が行われている。また平成18年に改正された新介護保険制度では「介護予防重視型システム」の概念が導入され、新たに新予防給付および地域支援事業が創設されている。そのなかで介護予防の観点から高齢者の運動器の機能向上トレーニングが重要視されており、地域社会における機能訓練指導員への期待がますます高まっている。

本校では柔道整復師が機能訓練指導員としても十分に対応できるように、平成19年より地域在住の高齢者を対象に附属接骨院の併設施設にて体操教室を開講し、学生への教育の一環として1・2年時の臨床実習(機能訓練実習)を実施している。

今回は実習が終了した学生にアンケート調査を行い、その教育的効果について検討したので報告する。

実習内容

機能訓練実習の目的

- ① 機能訓練指導員として必要な知識と技能を習得する
- ② 高齢者の心理を理解し医療人としてふさわしい心構えと態度を養う
- ③ 介護保険について理解し介護保険制度下における機能訓練のあり方を理解する

【機能訓練実習Ⅰ】

- 1) オリエンテーション
 - ・高齢者に対する医療人としての心構えとマナー
 - ・機能訓練指導員について
 - ・介護保険の概要
 - ・体操教室のシステムについて
- 2) 実習内容
 - ・聴き取り調査(問診・体調確認・バイタル測定)
 - ・マシン補助・誘導・記録チェック
 - ・各トレーニングの指導・補助
 - ・トレーニング後の聴き取り・バイタルチェック
 - ・カルテ記入
- 3) カンファレンス
 - ・高齢者運動介入の方法(各プログラムの流れ・集団指導理論)



トレーニングの指導



聴き取り調査



体力測定補助

【機能訓練実習Ⅱ】

- 1) オリエンテーション
 - ・トレーニングメニュー作成
 - ・評価計画を立案(情報収集・面接観察・検査測定)
 - ・介護保険について
- 2) 実習内容
 - ・聴き取り調査(問診・体調確認・バイタル測定)
 - ・個別プログラムの組み立て
 - ・個別機能訓練計画書の作成
 - ・評価(体力測定)
 - ・トレーニング後の聴き取り・バイタルチェック
 - ・カルテ記入
- 3) カンファレンス
 - ・実習のまとめ

機能訓練実習の評価項目と評価基準

- 1) 基礎知識と理解度
 - ・知識の量、理解度が優れているか
- 2) 機能訓練実習
 - ・高齢者とコミュニケーションがとれる
 - ・健康状態を聴取できる
 - ・与えられた課題を実行できる
- 3) 積極性
 - ・常に自ら学ぼうと行動し、努力している
- 4) 実習態度
 - ・柔道整復師をめざす学生としてふさわしい実習態度がとれる

◎評価基準

- A：優(90～100点)
B：良(70～89点)
C：可(60～79点)
D：不可(59点以下)

高齢者に対する機能訓練実習に関するアンケート調査

質問Q: 学生実習についてご意見をお聞かせください。
(ご自身に当てはまる番号に○を付けてください)

	思う	やや思う	どちらとも言えない	やや思わない	思わない
学生が居ると楽しい	5	4	3	2	1
介助してくれる	5	4	3	2	1
運動の指導をしてくれる	5	4	3	2	1
話し相手になる	5	4	3	2	1
学生が居るとわずらわしい	5	4	3	2	1
運動のじゃまになる	5	4	3	2	1

学生に対する機能訓練実習に関するアンケート調査

質問Q: 昨年度実施した高齢者機能訓練実習について意見を聴かせてください。
皆さんの意見を真摯に受け止め今後の実習に役立てたいと思います。
記名式ですがこのアンケートは成績評価には一切反映しません。

	強く思う	やや思う	どちらとも言えない	やや思わない	全く思わない
実習の内容は意欲的で価値のあるものでしたか	5	4	3	2	1
実習の履修目標を達成できましたか	5	4	3	2	1
実習で要求された作業量(聴き取り・マシン補助等)は適量でしたか	5	4	3	2	1
教員による指導体制は十分でしたか	5	4	3	2	1
学生を理解し質問がしやすい雰囲気でしたか	5	4	3	2	1
知的好奇心や医療に対する意欲が刺激されましたか	5	4	3	2	1
あなたはこの実習に積極的に参加しましたか	5	4	3	2	1
高齢者とコミュニケーションがうまくとれましたか	5	4	3	2	1

教育的効果

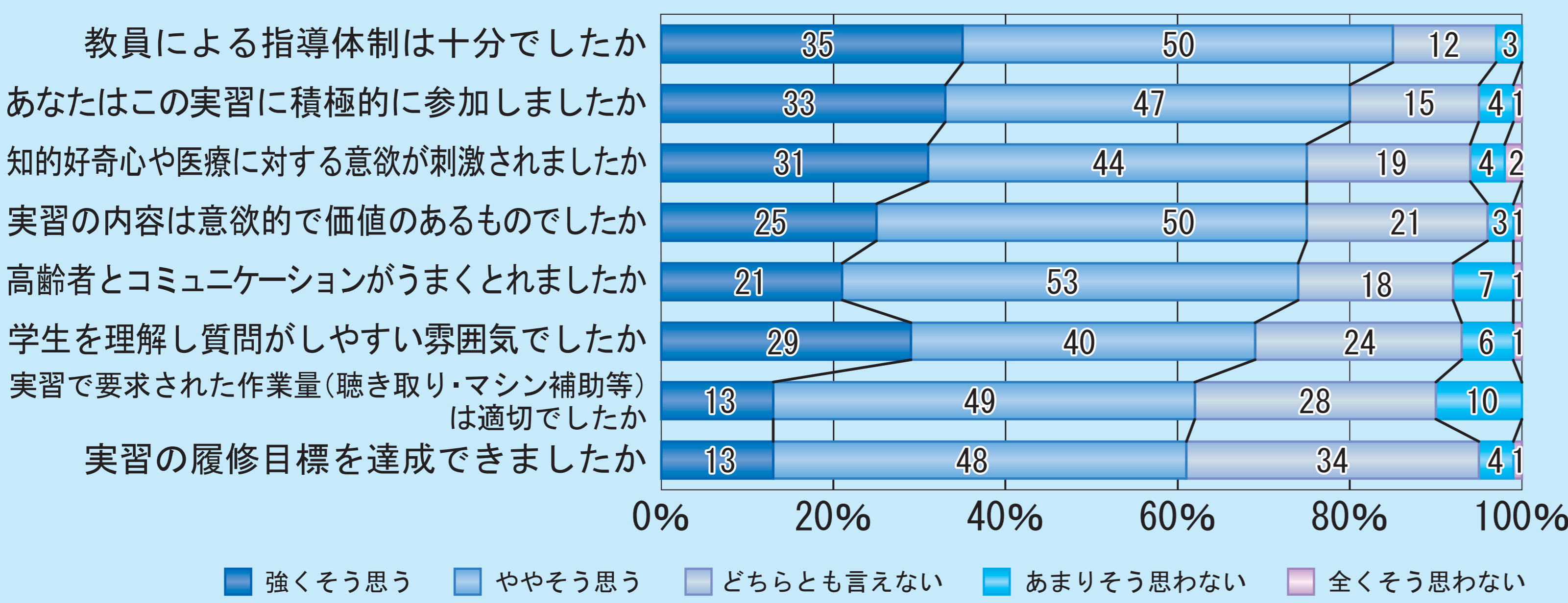


図1 学生に対するアンケート調査結果

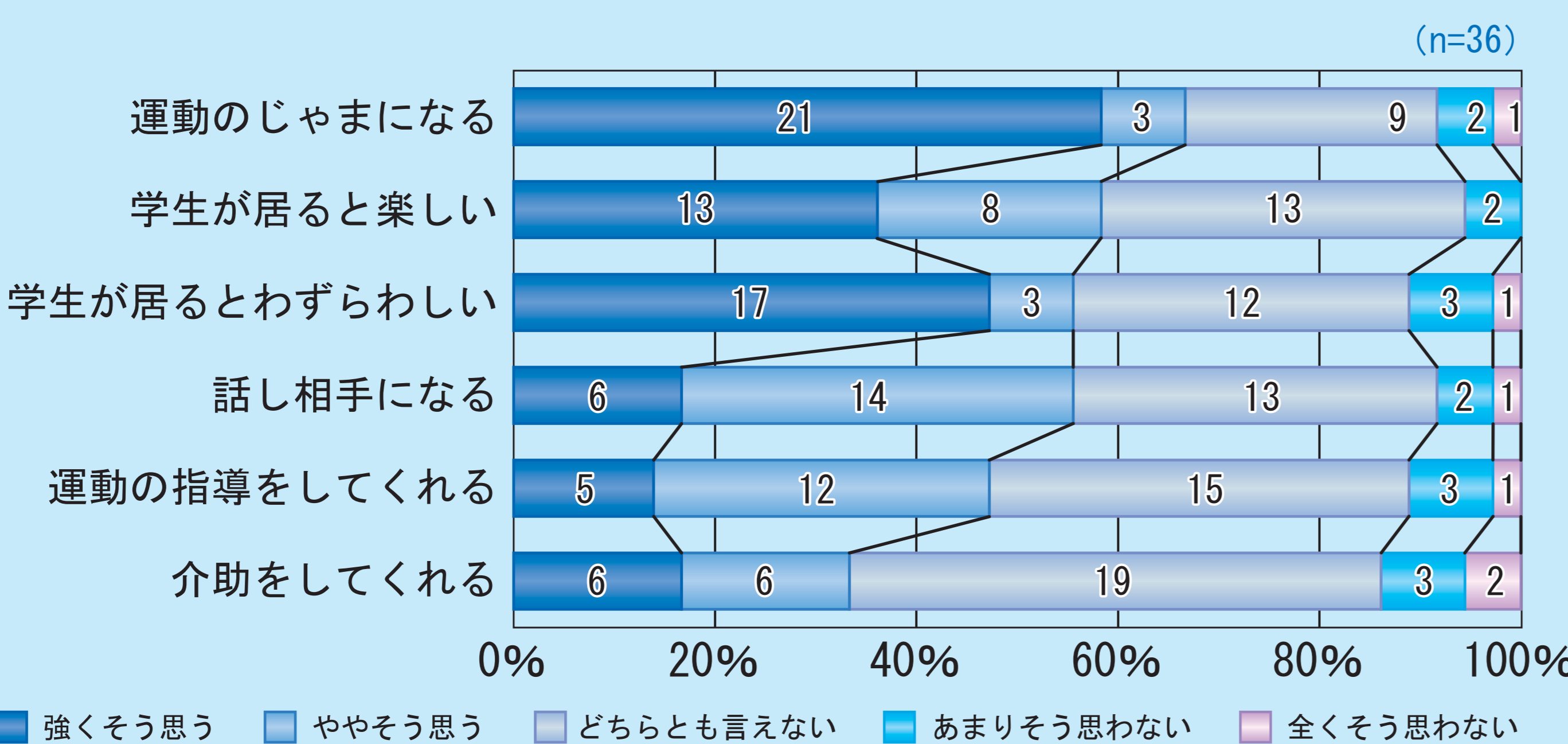


図2 高齢者に対するアンケート調査結果

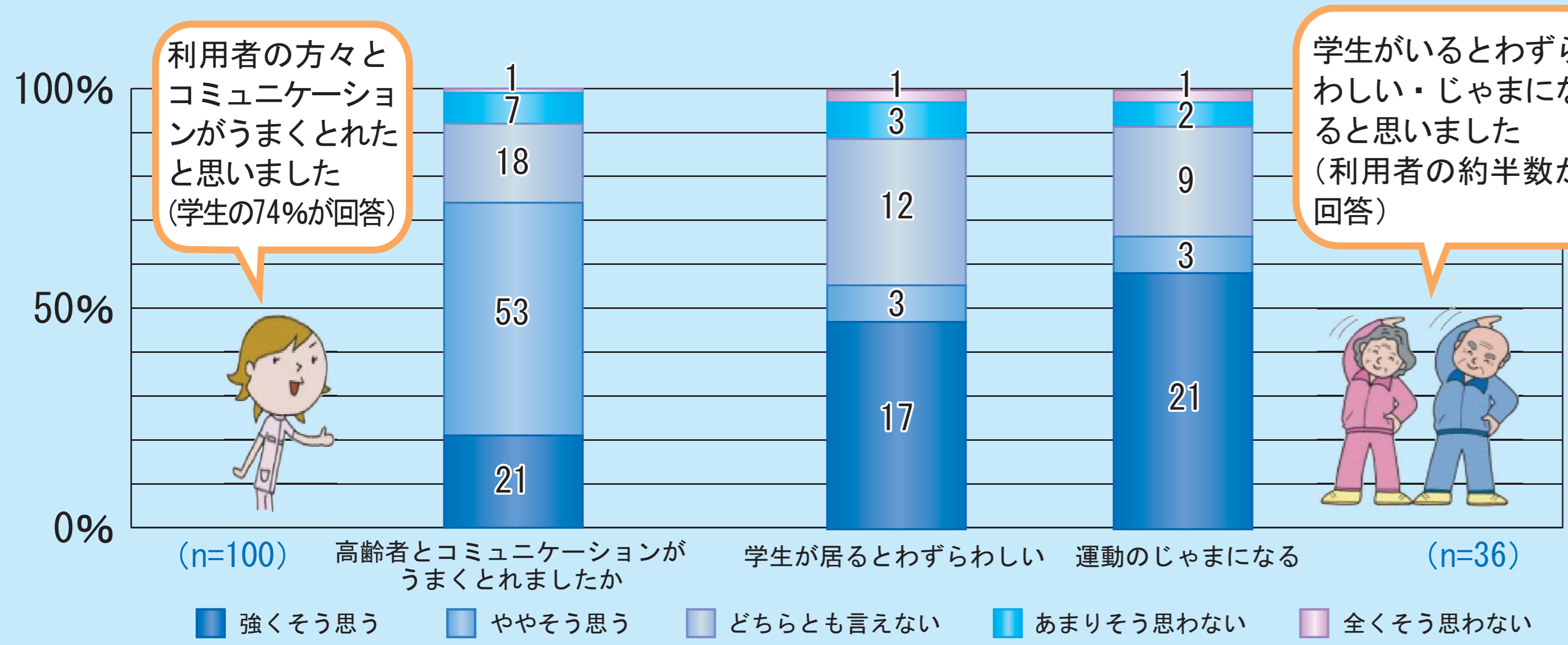


図3 学生と高齢者の相互認識の差異

考察

- 1: 高齢者の生きがいと健康づくり推進事業の実施には高齢者のスポーツ活動・健康づくり活動を推進するための組織づくりが重要視されている。本校において附属接骨院の併設施設にて高齢者対象の体操教室を開講(機能訓練を実施)することは利用者の身体機能の向上にとどまらず高齢者の住みなれた地域での生活を支え、生きがいづくりを支援することにつながる。我々は附属接骨院での臨床実習に機能訓練実習を組み入れ、学生に質の高い機能訓練指導員としての技術や心構えを習得させることを目標とする教育プログラムを実践してきた。機能訓練指導員への期待が高まる中、今後の課題として「機能訓練実習」を教育課程の中に組み込んでいく可能性があげられる。
- 2: 今回、実習が終了した学生にアンケート調査を行い機能訓練実習の学生への教育的効果について検討した。図1の結果から、学生の実習への参加態度は意欲的であり、学生の機能訓練実習参加に対するモチベーションは高いことがうかがえた。さらに履修目的の理解度や実習内容、教員の指導体制の満足度は高く、機能訓練実習の教育的効果は概ね良好であることが示された。特に「知的好奇心や医療に対する意欲が刺激されましたか」では合計75%の学生が「強く思う」と「やや思う」と回答しており、機能訓練実習を通して、教育目的の1つである「医療人としての心構え」が養われたことが示唆された。卒業生たちが将来、柔道整復師のみならず機能訓練指導員として地域の高齢者の介護予防に重要な役割を担うことが望まれる。
- 3: 機能訓練実習の目的の1つとして「高齢者の心理を理解する」という項目をあげている。しかし、「高齢者とコミュニケーションがうまくとれましたか」の問いに74%の学生は「コミュニケーションがとれた」と自己認識しているのに対して、高齢者の約半数が学生に対して「わずらわしさ」や「運動のじゃまになる」と回答しており、両者間の認識に差異が認められた。高齢者への運動介入や機能訓練の指導の実践において高齢者の立場に立って心理状態を理解することは機能訓練指導員として必要不可欠である。今後の課題として、機能訓練実習内容に人援助のコミュニケーションスキルを向上させるための心理学的な教育的プログラムの導入があげられる。